

令和8年第2回定例会行政報告

本日ここに、令和8年第2回定例会を招集しましたところ、議員各位にはご多用な折、出席いただきまして、御礼申し上げます。

只今、議長のお許しをいただきまして、議会に先立ち、行政報告として、直近の主要な重点事業や政策課題の進捗状況など、行政活動の一端を申し上げ、議員各位を始め、町民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。3月定例会で議決いただいた令和8年度当初予算は、「町民が幸福を実感できるまち なかい～里都まちで『よく生きる』～」を将来像に「第七次中井町総合計画前期基本計画」のもと、4月より順調に取り組みを進めているところで、第2回定例会での行政報告では、前回の行政報告以降、昨年12月以降を主な対象とし、

1. 新しい防災気象情報と台風6号への対応
2. 物価高騰対策支援金の支給
3. 2つの検討委員会
4. 特別市への反対の動き
5. 県立福祉機構と竹灯籠の夕べ

についてご報告します。

直感的に避難行動がとれるよう整理された、新しい防災気象情報が、令和8年5月29日より運用されることになり、先日、町災害対策本部年次会議を開催し、災害時対応の変更点等を確認しました。

今回の防災気象情報では、とりわけ土砂災害について大きな変更があり、レベル3土砂災害警報（高齢者避難）は、危険な場所からの全員避難を表す、レベル4土砂災害危険警報に推移する可能性が高い場合に発令されることになりました。しかもレベル3発令からレベル4までのリードタイムは、最短で3時間と限られており、町として、レベル3土砂災害警報が出された場合は、自動的に災害対策本部を設置し、避難所開設を指示、整い次第、受け入れ開始することとします。

これらは広報やSNS、動画共有サイトの番組などで順次周知していくところでしたが、早速、明日6月3日早朝に、台風6号の接近が予想されており、新たな運用による呼びかけ等を行います。議長から、すでに議事日程について検討いただける申し出を受けておりますことを感謝します。

昨今の物価高への支援として、国からの物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した、おひとり当たり9,000円を世帯ごとに支給する、物価高騰対策支援金の支給が始まります。コロナ禍以降こうした臨時交付金が出されていますが、本町の今回の特徴は、メニューや事務をシンプルにし最大限支給に回せるようにしたことにあります。近隣市町と比較して、各種算定式に基づく本町への国からの交付限度額は低いものの、町民の皆様への支給額や使い勝手はともに効果的であると考えます。

年末、今年初めからの地域懇談会等を経る中で、ご心配、ご不安を与えたまま、禍根を残して前に進むことはできないと、立ち止まる判断をした新たな生涯学習施設については、議会からの提言を踏まえ、生涯学習施設等検討委員会を立ち上げました。

本検討委員会では、議会も含む関係諸団体の皆様にお集まりいただき、実施設計までなった現事業を議論の出発点とし、検証していただきます。これまでの経緯やその課題点を通して、生涯学習施設のあるべき姿を検討いただき、価格高騰や社会情勢の変化も踏まえながら、次のスタートポイントをお示しいただくよう、諮問しています。

「なかい教育ビジョン」に基づき、本町の持続可能な学校教育の充実のため、教育的視点、保護者や地域連携の視点、適切な学校施設の視点、そしてまちづくりの視点等から総合的にご議論いただくよう、中井町立小中学校の今後の望ましい学校のあり方について、教育委員会に諮問し、保護者や地域住民、学識経験者や教育関係者からなる「中井町学校のあり方検討会」が設置されました。これからの中井の教育や子どもたちの教育環境について、町民の皆様と共に認識共有と合意形成を図ってまいります。

県から実質的に独立する、いわゆる「特別市」については、指定都市市長会において早期法制化の実現を目指していますが、県の担ってきた総合調整機能や財政面などへの影響が看過できないことから、神奈川県町村会は4月14日に、県知事に対し、特別市の法制化に反対する要望を提出しました。

これに呼応し、政令市を除く県内16市も反対の意を示し、先日の地方制度調査会では、全国町村会、全国町村議会議長会等団体も地域の分断を招きかねないと反対の意を示しており、広がりが出ています。

本町にとって県とのつながりを持つ施設としては唯一の、中井やまゆり園はこの度、地方独立行政法人神奈川県立福祉機構の元、再スタートを切りました。本町では近年、小麦などの栽培や収穫による農福連携、町内施設を活用しての作業などでかかわりを深めています。5月23日の厳島湿生公園での竹灯籠の夕べでは準備段階から参加され、利用者ご自身がデザインした灯籠に明かりを灯しました。イベント参加はもとより、夜の外出などなかなかできない中で、竹灯籠の夕べを通し、新たな体験をしていただきました。ともに本町で暮らす町民として、ともに歩む可能性を模索してまいります。

また、竹害から竹財への視点で、町内団体の協力や、関係人口も加えながら、竹害対策事業の顔かたちが見えてまいりました。なかいバンブーベースという交流団体を形成しながら、地道に結果を出してまいりますので、何卒ご理解ご協力をお願いします。

今議会におきましても町の取り組みに多様な質問をいただいております。認識を共有し、活発な議論になるようお願い申し上げます、行政報告といたします。

令和8年6月2日

中井町長 戸村裕司